

# 会 議 録

会 議 名	令和 4 年度 第 2 回山形市少年自然の家運営協議会
開催日時	令和 5 年 2 月 1 4 日 (火) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0
開催場所	山形市少年自然の家 研修室
主 催	山形市少年自然の家
出席者	出席委員 櫻井 順一、栗田 和真、辻原 吉子、黒沼 末八、三須 洋子 奥山 竜士、奥山 健悦、横倉 明、齋藤 和夫 欠席委員 鹿又 源州
事務局	金沢 智也 教育長、高橋 一実 教育部長 少年自然の家 小関 仁美 所長 山口 雅和 副所長 伊藤 義文 副所長 森山 真澄 指導主事 横山 誠 主幹
議 題	令和 4 年度事業報告・施設利用報告 令和 5 年度運営方針・事業計画・施設利用予定 等
資 料	令和 4 年度 第 1 回山形市少年自然の家運営協議会 資料
作成者	主幹 横山 誠

## 会議経過

### 1 開会

### 2 利用団体活動状況視察

スキー場ゲレンデ：千歳小 1、2 年生・村山特別支援学校 5 年生

### 3 教育長あいさつ

### 4 運営協議会長あいさつ

### 5 協議

少年自然の家条例施行規則により、齋藤和夫会長を議長に選任

#### (1) 令和 4 年度事業報告について

#### (2) 令和 4 年度施設利用報告について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 少年団でテーマを決めて活動していたのが良いと思った。また、「森の昆虫見つけ隊」をやった際、3 日間とも定員一杯で、抽選で参加者が決まった。コロナ前はそこまで申込み多くなかった。増えた要因は分からないが、講師 2 人とスタッフで指導して丁度よい人数でうまくいったのではないかと思った。

委員 主催事業等でいろいろな団体との連携することも大事であると感じた。

委員 主催事業では魅力的な事業が多いと感じた。子供の時以来、来所していなかったが、トレイルランニングのような事業あると子供がいなくても参加できるのでないか。

委員 コロナの中、前に進んでいると感じた。そば打ち道場で講師をしたが、お父さんの参加が多く、父の株が上がる事業で良かった。そば打ち道場は申込みが多いので、参加者を増やして 20 組くらいまでなら対応できると思う。私たちの団体でそば打ちの道具を提供することも可能である。

委員 一般の方（大人）も楽しめる事業多いと感じた

委員 参加できた子は幸福だと思った。プラネタリウムやキャンプなどの行事ではリピーターと新規の方でどちらが多いのか。

事務局 だいたい半々くらいの割合である。

委員 先ほどゲレンデを見て冬の魅力を感じた。中学校の冬の活動も考えられるのではないか。保健体育の授業で半日ラングラウフスキーをしたりできるかも

委員 小学校は教科に英語が増えたりして、かつてより時間的ゆとりが減ってきている。一般の利用を増やすのは良いことと考える。問題点としては、公共交通機関で来ることができないことがある。以前、自家用車利用で来所できない子供を対象にした事業で、市役所・霞城セントラルを集合場所にしてそこから貸切バスで送迎を行ったこともあった。

### (3) 令和5年度運営方針（案）について

事務局より、資料を用いて提案。同意をいただいた。

議長 施策1-2でバス利用への助成とあるが、先に意見のあった自家用車で来所できない子向けにバス借り上げの予算を要求して事業を行うことも前向きに検討してもらいたい。

委員 施策6-2 取組5の(2)リスクマネジメント研修については、関連する団体の指導者にも行ってもらえればありがたいと考える。

事務局 現在行っている研修は外部講師に依頼し、利用団体の方が参加することも可能な形態で行っており、希望があれば参加いただくことは可能である。

### (4) 令和5年度事業計画（案）について

#### (5) 令和5年度利用予定について

事務局より、資料を用いて説明

所長 事業計画には記載していないが、各団体とのコラボレーションの強化として、フライングディスク協会で今年4月に当所を会場に東北大会を開催する。また、フライングディスクの常設コース等の施設環境が整っていることから東北の活動拠点としていきたいとの申し出をもらっている。他にキャンプ場施設も、市内で体験型の活動を行う団体より当所をベースに行事を開催したいとのお話や、全国規模でのキャンプイベントの開催のお話を受けていることから、今後教育委員会内でも協議して対応していきたいと考えている。

### (6) その他

事務局より、資料「山形市少年自然の家の今後のあり方の検討について」により、検討委員会を設置し検討することを報告。

教育部長 検討委員会では、少年自然の家の今後のあり方を前提条件なく検討することを目的としている。背景として、建物の老朽化で今後改修に多額の費用がかかることがはっきりしていること。二点目は、学校が大変忙しくなっていることや子供の人数が減ってきていることから、施設を利用する子供の数や回数が今後減っていくことが考えられること。三点目は近年のキャンプブームなど様々なアウトドア志向の高まりや山形市が目指す「健康医療先進都市」に向けもっと市民に自然環境に親しんでもらい健康寿命を延ばすための方策等でアウトドアに関するニーズが高まっている状況にあることなどがある。このようなことを認識しつつ、もっと施設や建物が活用されるよう学校中心の利用に止まらない幅広い利用の方策の検討や、施設運営を民間企業に行ってもらうことも含めてどのような運営を行っていくかを考えて、この施設が今後も持続可能な運営ができる方法を検討していくという趣旨であ

る。検討会の有識者としては、大学の先生、利用者の小中学校関係者、地元の方々、自然活動で活躍・見識のある民間の方、企業の方などに参画いただく考えである。来年度に方向性を出し、整備が必要であれば6, 7年度に行って、新しい形の運営にしていくこととなる。今後検討を進めることを、委員の方にご承知いただきたく今回提案させていただいたものである。

議長 開設から43年経過し修理するための財政的な問題や少子化、一般の方の自然志向など、コロナをきっかけにあり方を検討していくということは意義のある事と考える。

委員 時代に合わせた運営は必要、建物の維持ができるのか心配がある。

委員 学校教育に限らず幅広い運営を行うことには賛成するが、これまで同様、市内の小中学校が使いやすい環境であるといった部分は残して欲しい。

議長 山形市の子供達がどの様に育って欲しいか

委員 大人も楽しめる場所となるのは良いこと。子供が自然体験をできるためには親の理解が必要。今の子供達が親になった時に次の世代につなぐために、ここでの自然体験学習は大切なことだと思っている。

委員 現在は団塊の世代に元気があり人数も多い。そういった層にもアピールできればと考える。具体的な内容は浮かばないが、検討に当たっては利用者数の問題だけではなく、別の視点もあればよいと思う。

委員 親子での行事などみると自然で遊べない親がけっこうみられる。子供達とともに親も自然体験ができるようにできればよいと思う。

委員 小中学生の体験の機会を減らしてはならないと考える。あり方の検討も学校教育のみにとどまらない持続可能な内容を検討いただけることありがたいと思う。私達の団体でも協力できればと思う。

委員 最終的にはどの様な形にするのかは大きな問題と思う。市民ニーズに応える方向にならざるを得ないのではないか。

委員 様々な社会環境の変化に合わせて変わっていくことは必要。社会構造が変化してYouTubeなどで企業に勤めなくても収入を得られる世の中になってきているが、画像で見る疑似体験ではない本当の体験ができる自然の家のような施設は必要であり残して欲しい。

## 6 閉会